



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医科大学卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

先の内閣改造で、元アイドルで当選一期の議員が内閣府政務官に抜擢(ばってき)されたことで、「本当に大丈夫なのか」と首を傾げている国民も多いようです。

政務官とは、大臣内閣府では内閣官房長官又は特命担当大臣の下で、国会との交渉や政策の企画などの政務を担当する重職です。知名度よりも、実力があるというポストであるはず。

一昨年、文部科学政務官を務めたこの人は、知名度はそれほどではありませんでしたが、その仕事ぶりには定評がありました。自民党衆院議員の宮川典子さんが、9月12日に都内の病院で亡くなりました。まだ40歳という若さでの旅立ち。死因は乳がんとのこと。

山梨県出身の宮川さんの実家

123 衆院議員 宮川典子

は、教職一家。御自身も山梨学院大学付属中学高等学校で5年間、教鞭(きょうべん)を振るっていました。

しかし、その間に生徒が2人自殺。2人とも、「この国は努力をしても報われない」という趣旨の遺書を残していたことから、教育改革に身を捧げようと決意。松下政経塾で学び直し、政治家に転身したといえます。

あるインタビューでは、「その15歳の訴えの答えを見つけないために、自分はどうして政治家



必勝

議員生活の半分は、がん治療受けながら

動をしている」と語っておられました。

事務所の発表によれば、宮川さんは3年半ほど前に乳がんが見つかったとのこと。初当選は、2012年ですから、議員生活の半分ほどは、がん治療を受けながらだったはず。

現在、乳がんは5年生存率90%以上、10年生存率80%以上で、「予後の良いがん」と言われますが、さまざまタイプがあり、大変進行が早いケースがあるのも事実です。

宮川さんの乳がんがどのタイプ

だったかは定かではありませんが、トリプルネガティブといって、エストロゲン受容体、プロゲステロン受容体、そしてHER2を持っていないタイプの乳がんは、増殖能力が高く、また、治療手段も限られることから、難しいがんとして知られています。乳がん患者のうち、10〜15%がこのタイプにあたり、比較的若い人がなりやすいのも特徴です。

しかし、このタイプに効果のある抗がん剤の研究も日進月歩で進められており、あきらめるものはありません。

宮川さんは、先の教育改革ともう一つ、月経関連疾患(PMS)をライフワークにしました。生理の痛み、辛さを男性議員にも理解してもらおうと国会で働きかけていました。

現場目線で教育改革と女性の健康問題に取り組んだ宮川さん。彼女が撒(ま)いた種を育ててくれる政治家が現れますように…。